し、埼玉県内のベンチャー企業に投資する「埼玉成長企業サポートファンド」などから投資を受けている。二〇〇八年三月期の売上高は二十五億円を見込んでいる。

県内倒産件数 上期は34%増

2.7倍 負債総額

東京商工リサーチ埼玉支店（さいたま市）がまとめた二〇〇七年四―九月期の倒産件数（負債額一千万円以上）は二百四十二件で前年同期に比べ三四%増えた。負債総額は二・七倍の六百三十三億八千七百万円だった。小型倒産の増加に加えて負債額が十億円超の大型倒産が相次ぎ、負債総額を押し上げた。

倒産件数、負債総額ともに過去十年では三番目の少なさ。ただ同支店によると「原材料費の高騰や競争激化による単価の下落で経営環境は厳しくなっている」という。

業種別ではサービス業が六十五件で最も多かった。次いで建設工事業六十三件、卸・小売業五十五件、製造業五十件、不動産業九件の順。全業種で前年同期を上回った。

主な大型倒産は、液晶部品製造の広重産業（川口市）が負債額九十八億円、不動産賃貸業の小関住研（草加市）が五十三億円だった。

謙潤する。本業に経営資源を集中することで業績立て直しを急ぐ。

保有する大秦の六千七百五株（発行済み株式総数の五一・五%）を三十一日までに総額六十七万

県民などの意見を参考に二十八冊の推薦図書を公表した。若年層の間で本離れを懸念する声が出ているなか、子供に読んでほしい本を提案し、少しでも読書の機会を増やした「算法少女」など四冊、高校生・青年にはカラスの生態を追った「カラスはなぜ東京が好きなのか」などの四冊を選んだ。読書週間は十一月九日まで。

かどうかを調査する。

千葉県は「現在調査中の五件について構造計算書などの資料を集めている。できるだけ早く分析を終わらせたい」（建築指導課）と説明している。

ニュービジネス大賞最優秀賞

もつ焼き外食に

さいたま市

さいたま市産業創造財団は十五日、「さいたま市ニュービジネス大賞」の受賞者を発表した。食肉加工品製造・卸の日本トップフーズ（鳩ケ谷市）の熱田貴比古常務が提案した「もつ焼き『豚兵衛』による外食産業への進出とFC展開」を最優秀賞に決めた。実現可能性の高さや既存事業と結びつきが強いことを評価した。

四十二件の応募があり書類とプレゼンテーションをもとに審査した。最優秀賞には五十万円を贈る。このほか優秀賞や女性創業賞など六件を選んだ。十一月一日に大宮ソニックシティで授賞式を開く。受賞者には同財団が販路開拓など事業化を支援する。ニュービジネス大賞は新事業の発掘を目的に二〇〇五年に始まり、今回が三回目。

東京倶楽部ビル

商業施設が入居

霞が関、25日開業

三井不動産は、明治期の社交クラブを前身とする東京倶楽部（港区）と共同で、千代田区霞が関にある「東京倶楽部ビルディング」の建て替え事業を終了した。オフィス

た。大型案件の減少で建

万円にとどまった。